

## 《本号の表紙絵》

### 山崎佐による「各藩医学教育の展望」抄録の原稿と調査ノート

山崎佐（1888-1967）は、日本の医事法制学の開拓者であり、多数の医療裁判に関わった法律家でもあり、さらに医史学研究においても影響力のある業績を残している。第二次大戦中から戦後の混乱期には本学会理事長も務めていた。山崎が収集した膨大な文献資料は本人の申出により順天堂大学に寄贈され、現在「山崎文庫」として順天堂大学医史学研究室内に収められている。他には東京大学日本法制史料センターと明治大学ELM（法・医・倫理の資料館）にも山崎の残した資料が保管され、それぞれ目録が作られている。

順天堂内の山崎文庫は書籍や文書資料が中心であるが、山崎自筆の原稿も含まれている。表紙絵は、昭和30年の第57回医史学会総会「シンポジウム 医学教育の歴史」における口演「各藩医学教育の展望」の抄録のための原稿とその準備として行なわれたと調査ノートである。山崎による各藩の医学教育に関する論文は有名であるが、その総まとめを構想していた時期の研究である。調査ノートは帳簿の裏紙や受け取った手紙の裏紙を使用し、手紙の日付から、昭和29年に作成されたと推定される。ノートでは医学教育を行っていた89藩について、藩のアルファベット順に教育機関や教育内容の内訳表を作り、集計している。この集計を元に発表が行なわれたが、医史学雑誌第5巻第4号掲載の抄録では89藩であるのに対し、「山崎用箋」の名入れある原稿用紙に書かれた原稿では該当部分の上に紙を貼って94藩と訂正されている。抄録原稿を提出した後も調査に進展があったことを物語るとともに、医史学の先達の研究過程を伝える資料でもある。

（澤井 直）